

(2012年12月12日実施)

第16回 JOMF 特別企画セミナー 大阪開催のご報告 (記事スタイル)

2012年12月12日、大阪商工会議所 特別会議室において 第16回セミナーが開催された。題して『世界の医療事情』。10月24日東京如水会館での「第14回海外医療情報交換会」で録音した音声に基金スタッフがパワーポイントを操作することで当日を再現。あわせて弊基金宮本による『中国最新医療事情と食・水の安全』についてのプレゼンも実施された。

内容的には基金の拠点診療所 4名の医師による主に感染症に関する現地報告(日暮真由美先生からはメンタルヘルス報告)に続いてタイ・バンコク病院の田中耕太郎さんの『タイ医療事情』、ベトナム・ホーチミンのロータスクリニック院長白井拓司先生の『ベトナム最新医療事情』、それに宮本の『中国最新医療事情と食・水の安全』という構成になった。

一参加者数は？

A: 17名の方に参加戴きました。男女別では女性9名、男性8名、職種別では人事・総務・安全管理等の一般参加者が11名、医療関係者が6名でした。
今回は、特別会議室を商工会議所のご配慮で提供戴けましたが、歴代会長の写真がまるで一緒になって講義を聞いているような錯覚にもとらわれてしまいましたので写真の12名を混ぜたら29名ですね:笑。



大阪商工会議所歴代の会長の写真が並ぶ特別会議室



大阪商工会議所歴代の会長の写真、、彼らも出席者に数えると・・・？

一皆さんの発表内容は？

A: 【各講師発表内容(発表順)】

日暮先生: クリニックでの臨床結果の報告に続き、今回は、「海外赴任をすると太るのか？」というテーマに絞った形でこれまでにクリニックで受診された 5,000名のカルテからの「BMI値」を分析。異常値を持つ人の影響で大きな差異がみられなかったとしながらも、①赴任前のデータを持たせてほしい、②フォローをするためにも健康診断をぜひ受けてほしいといった日本側人事総務部門へのメッセージが込められていました。



日暮先生 (SIN)



菊地先生 (JKT)

菊地先生: 診療所での臨床報告と、マニラにおける医療事情(すぐに手術をされたり安易に輸血を薦められるという現状)に関する報告に続き、心肺蘇生セミナー活動のご紹介などがあり、①現地の医療事情を理解して赴任者に治療を、②緊急時の外科的治療などについても日本できちんと産業医と対策案をねること、③歯科治療は現地派遣する前に直しておくこと、などについて日本側へのメッセージが込められていました(スライド操作を担当していた基金槻谷部長より基金のニュースレター(10月号)でも心肺蘇生などのことに触れているので一読をという捕捉説明追加あり)。



菊地先生と原先生のプレゼン補足説明をする JOMF 槻谷部長

原先生: クリニックの移転が半年休業の後に、ようやく完了したこと、日本人が利用する医療機関についての報告に続き、どこで治療すべきか、航空機搬送ができない場合の対処方法について、その判断材料はどのようにすべきか等について、虫垂炎や現地出



原先生 (JKT)

産の事例を踏まえて説明がなされました。



日暮真由美先生
(SIN)

日暮真由美先生: クリニックでの臨床報告と日本側に要求したいこと、の二本立てで話が展開されました。現場の駐在員の声が本社には届いていないことが問題を起す原因の一つとして挙げられており、①『産業医、産業看護師職の方も現地で直接に面談をしてほしい』、②日本側人事総務部門はもっと現場に心理士さんも含めた医療スタッフを派遣して『現場の声』を把握してほしいといったメッセージが込められていました。

田中耕太郎さん: ①タイの医療保険制度、②タイと日本の医療事情比較、③医師制度、④私立ビジネス病院(ビジネスオリエントドな私立病院)、⑤バンコク病院グループの紹介に続き、⑥実際の医療搬送活動についての紹介がなされました。安いけれど並みのレベルの公立病院、高いけれど最新の設備と高度な医療技術をもち、国際搬送も可能な私立系の病院という構図がタイの保険制度と並べて説明されることで、参加者の方にもご理解できたのではないかと思います。



田中さん (BKK)



白井先生 (HCM)

白井拓司先生: ①現地での感染症や交通事故の状況、②現地医療機関の紹介、③救急車事情(電話は115番ですが日本語英語が通じません!)、④産婦人科事情、⑤薬局事情について、カラフルな写真と「路上ひったくり」の衝撃的ビデオ映像が披露されましたが、同国における交通事故やひったくりにより多くの邦人がクリニックに運び込まれている現状を認識して戴けたかと思えます。

宮本昌和部長: 中国における①感染症データの取り方、②医療機関事情(病院のグレード区分と数量等)、③大気汚染や水質汚濁、③薬や食品の安全性の問題点、④中国の医療情報を取るための工夫の仕方などについて説明がなされました(基本は8月25日の海外勤務者全国協議会研修会と同じで、医療機関データと、主要感染症データについては最新のものにアップデート)。



宮本のプレゼン風景

—アンケート結果は？

A: 内容的には学ぶものがあつたという意見が多いのですが、やはりアクチュアルのプレゼンと音声だけのプレゼンでは、迫力が違うという風に感じられた方がいらっしゃいました。また、宮本のプレゼンについては、8月にも聞いて戴いた方がいらっしゃるの、その意味では新鮮さが失われたという声も・・・とほほです:苦笑
ただ、全般的には各地の医療事情について知ることができたという点でよい評価を戴けていました。来年は、基金スタッフが代理で各拠点医師のプレゼンを行うという従来の方に戻す方がよいか、などと考えているところです。

—最後にひとこと？

A: 今回は、東京から、和歌山からと遠距離からご参加戴いた方もいらっしゃいまして、懇親会の方にもかなりの方(殆ど皆さん)が参加して戴けたことが印象的でした。
次回は、やはり大阪商工会議所で7月3日の東京真福寺で行われたメンタルヘルスセミナーをパワーアップした形で、実施します。全て講師は東京から、福岡から駆け付けてくださいますので、大阪の皆さん、楽しみにして下さい。
さらに、2月6日には東京医科大学病院渡航者医療センターさんの実用セミナーとの共催で感染症、特に現在厚労省の研究班として同大学が研究されている『デング熱』等蚊が媒介する感染症関連の情報満載のセミナーも企画されています。これは東京だけの開催となりますが、是非ご参加戴ければと思っております。

